



# だより

No. 3 : H 2 7 . 9 . 2 5

編集 : SGH 推進室

発行責任者 : 新屋長二郎

## 「SG探究基礎」特別講義にて統計学の入門を学習しました!

9月10日(木)「グローバルリーダーに求められる“現象をデータで読み解く力”～世界共通の力としての統計思考力～」と題して慶應義塾大学大学院教授の渡辺美智子教授に特別講義をしていただきました。

統計学を用いて課題解決に取り組むことは、グローバルビジネスや研究の分野で、近年ますます重要になっているそうです。渡辺教授は野球部の高校生が大会で優勝するために、データを分析してチーム改革を実践したことを例に、問題の発見から解決に至るまで、いかに数字を読み解いていくかを分かりやすく説明してくださいました。



講義終了後、各クラスに統計に関する書籍を配布しました。今後、本格化するSG探究基礎での課題研究に、この講義で学んだことを活かしていきましょう。

物事をデータ化することで、現状を“見える化”でき、それによって事実をより深く把握できたり、対応法を見つけたりできるのだと分かりました。また、統計のグラフをつくることは、自分にしかいないストーリーを仕上げるのだと分かりました。統計というものは、ただデータをきれいにまとめたり把握しやすくなっているだけでなく、大切なコミュニケーション力を、ある意味育てているということを知りました。

私はこの講義を受ける前、この講義のタイトルにとっても違和感、というか疑問を感じてはいたけれど、現象をデータで読み解いて未来へつなげる、というようなニュアンスなのかなどと思った。うまくデータとグラフを駆使し国際的に活躍できるような人材になりたい。

不確実性の中に数理を見つけること、その分析力がこのグローバル社会で求められている力なのだ、と思った。勉強においても、過去の点数とその結果に至るプロセスを分析したら、よりよい勉強法を見出せるかもしれないと感じた。

統計の不確実性のある事象を予測し、確実化するという特長はクラブチームや企業など小規模な集団の問題から国家や世界全体のグローバルな課題までに応用することができ、まさに「最強の学問」だと感じた。この分野に対する興味が更に深まったので実践的な勉強をしていきたい。

### \* 講義メモ \*

□ 現状を“見える化” = 事実を把握 → 何をすべきかがわかる → 対応法を見つける

□ PPDAC課題解決法

Problem → Plan → Data → Analysis → Conclusion  
(問題発見) (調査の計画) (データの収集) (分析) (結論)

\* 解ける問題にすること

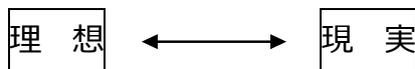
□ 統計的な問題解決

① 自分たちの理想は何か考える

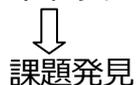
② 結果を測る指標を考える

③ 勝敗に至るプロセスを考える

□ 理想を頭に描かないと、課題は見つからない。



ギャップ



現状を良しとしないことから、課題が見つかる  
→ 「テーマ設定の理由」を書く



□ 「協働」の重要性 = いろいろな人の知恵を入れることで、あっと驚く“解”が見つかる。

# 先輩に学ぶグローバル人材への道

9月12日(土)EX 後11時30分から「先輩に学ぶグローバル人材への道」と題して本校OGの稲垣陽子さん(金沢大学医薬保健学域 医学類5年生)と、仲井洋輔さん(早稲田大学国際教養学部 国際教養学科4年生)のお二人をお招きして、お話を伺いました。

お話が終わった後も、二人を囲んでたくさん質問している姿が見受けられ、生徒たちにとって大きな刺激となったことが伺えました。



## \* 講義メモ \*

### 仲井洋輔さん

・クイーンズランド大学(オーストラリア)に1年留学した経験を持つ。現在は大手商社に内定が決まり、将来のグローバル人材となるべく様々な活動に取り組んでいる。

□グローバル人材とは、

日本の良さも自覚した上で

働くことのできる人材

□自分の“軸”をもつことこそが、

グローバル人材になるためには大切

### 稲垣陽子さん

・フィリピンで発展途上国のボランティアを体験  
→世界の実情を知って、国際機関で医療に貢献する道への志を強める。今期はスリランカでの研修に参加を予定。

□自分の“芯”をつくるには、ちょっとした経験の積み重ねが大切。日本でできないことは、海外でもできない。

□一歩踏み出すことで、世界は変わる

私は今回の講座を聞くことで、あいまだった将来がすこしはっきりしてきたと思います。「これをやりたい!」「これを学びたい!」というのはあっても、そこに至るプロセスがまだ明確ではありませんでした。でも実際に目標をもってそこに向かって留学や、いろいろなプログラムに参加する先輩方のお話を聞くと、私もしっかりアクションを起こせるようになりたいなと思いました。



今日の講座を通して、私はさらに、国際関係に携わる仕事に興味を持ちました。特に自分の“芯”や“軸”を持つことが大切だということが分かり、漠然でもいいから、私も自分の軸となるものをまず考えようと考えさせられました。

## 10月のSGH推進室関連の予定

10月3日(土) 10:00~13:00

グローバルリーダーシップ養成講座(POST2015プロジェクト): 希望者

国連大学ワークショップ「地域の課題から国連持続可能な開発目標について考えよう」

モデレーター: 北村友人氏(東京大学准教授、ポスト2015プロジェクトテーマリーダー)

「石川の自然と文化を守るために何が必要か」をテーマに、海外研修(国連ステディビジット)の経験を持つ大学生とともに議論を通じて国連への提言を考えます。

10月17日(土) 土曜EX後 11:30~13:00

大学の出前授業: 希望者

京都大学出前授業「異文化理解はどこまで可能~文化人類学から考える他者理解~」

講師: ニツ山達朗氏(京都大学大学院)

グローバル社会の重要な課題である異文化理解。異なるバックグラウンドをもつ人々をどこまで理解できるのか。文化人類学の視点から考えます。

10月23日(金) 5・6限

SG 思考基礎: 全員「グローバル社会で求められること(仮)」

講師: 河合江理子氏(京都大学大学院 思修館 教授)

「思修館」が目指すのは地球規模の課題解決を先導するグローバルリーダーの育成。文理融合・異分野融合によって思考力と実践力をどう磨くべきか、そのヒントを話していただきます。